2019年も開催しました！「発見！水の文化」

ミツカン水の文化センターが2017年度からスタートした、身近で気軽に参加できるフィールドワーク「発見！水の文化」を2019年度も開催しました。第12回「船でめぐる東京の水辺～日本橋川・神田川編～」と第13回「江戸の水辺街歩き ～日本橋編～」の様子をご紹介します。HPでぜひご覧ください！ http://www.mizu.gr.jp/hakken/houkoku/

Webで公開中！

第12回 船でめぐる東京の水辺 ～日本橋川・神田川編～

――2019年5月25日（土）13:00～16:30

講師：高松 巌（たかまつ・いわお）**さん**　一般社団法人 まちふね みらい塾　代表理事
阿部 彰（あべ・あきら）**さん**　一般社団法人 まちふね みらい塾　専務理事

神田川（御茶ノ水エリア）

12回目を迎えた「発見！水の文化」では、変わりゆく東京の水辺の歴史・文化的背景を、講師の解説をもとに学びました。

今回の見どころは［橋の歳を見分ける］［江戸時代から現代への重なりを知る］の2点でした。橋から川をのぞく人に手をふったり、晴天のもと、船から見る景色を撮影したりしました。船に乗り、講師の解説を聞くことで、水と人とのかかわりを改めて体感しました。参加者の皆さん、ありがとうございました。

日本橋船着場発着 → 日本橋川 → 神田川 → 隅田川 東雲運河 豊洲運河

参加者の声

「水路から街を見るとさまざまな発見があっておもしろかった」（50代女性）
「じっくり東京の水路を見る（堪能する）ことができてとてもよかった」（50代女性）
「また参加したいです！」（20代女性）

阿部さんの解説に聞き入る参加者。江戸時代に日本橋川は平川と呼ばれていました。江戸城を守る外堀の役割を担っていて、その時代に構築された石垣が今も残っています。1960年代、川が汚れ行き交う船も少なくなり、水路の必要性が薄まったこともあり、石垣を削って高速道路の柱脚が建てられています

橋の裏側から構造を見つめる。日本橋川と神田川にかかる橋には140年もの差があり、それぞれの時代で造り方が異なっています。その違いを橋の裏から見ていきました

第13回 江戸の水辺街歩き ～日本橋編～

――2019年6月8日（土）13:00～16:30

講師：斎藤 善之（さいとう・よしゆき）**さん**　東北学院大学経営学部 教授

集合場所の日本橋観光案内所付近

日本橋 日本橋室町エリア → 日本橋堀留町 小網町エリア → 日本橋兜町 茅場町・新川エリア → 隅田川河口

講師に斎藤善之さんをお招きして「江戸の水辺街歩き～日本橋編～」を開催しました。今も東京に残る「江戸の水路・掘割の跡」をめぐることで、当時の街づくりにおける「舟運・水」の重要性と、今に引き継がれている“水の文化”を再発見しました。

「江戸の水辺街歩き～日本橋編～」は過去に2回実施していますが、斎藤さんが毎回内容を見直して案内・解説してくださるので、全体の3割は新たな知識が得られるようになっています。何度ご参加いただいても新たな発見！ができますよ。

8月　9月

2019年もやります！
ミツカン水の文化センター企画展

「水の学校」「水の文化祭」

ミツカングループが運営する愛知県半田市の体験型博物館「MIZKAN MUSEUM」（愛称・MIM［ミム］）にて、2019年8月から9月にかけての約2カ月間、企画展「水の学校」と「水の文化祭」を実施します。詳細はHPで随時お知らせいたします。皆さまのご来場をお待ちしております！

会期 8月の企画展：「水の学校」8月2日（金）～8月26日（月）
9月の企画展：「水の文化祭」8月30日（金）～9月29日（日）
場所 MIZKAN MUSEUM（ミツカンミュージアム）
愛知県半田市中村町2-6　Tel.0569-24-5111
※MIZKAN MUSEUMの常設展示コースの見学は事前予約制となっていますが、「水の学校」「水の文化祭」を開催する展示ルームは予約不要・無料で入場いただけます。
https://www.mizkan.co.jp/mim/

水の文化 Information

■『水の文化』に関する情報をお寄せください
本誌『水の文化』では、今後も引き続き「人と水のかかわり」に焦点をあてた活動や調査・研究などを紹介していきます。
ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根ざした調査や研究がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

■ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください。
http://www.mizu.gr.jp/

■水の文化 バックナンバーをホームページで
本誌はホームページからPDFファイルとしてダウンロードできるほか、冊子をご希望の方はホームページの「最新号のお申し込みボタン」からお申し込みいただけます。どうぞご利用ください。

■「水にかかわる生活意識調査」ホームページで公開中
20年以上にわたり、ほぼ同じ内容で日常生活と水とのかかわりや意識、水と文化に関する生活意識調査を実施しています。結果はすべて公開していますので、ぜひご活用ください。

皆さまの感想をお待ちしています！

『水の文化』62号について、アンケートにご協力ください。
今後の機関誌をよりよくしていくための参考にさせていただきます。

◆アンケートへの回答はこちらから。
http://www.mizu.gr.jp/form62.html

※アンケート用紙をお持ちの方は、FAXまたはメールにて
下記へご返信いただく形でも結構です。
FAX：03-3568-4025
メールアドレス：mizubun@mizu.gr.jp

編集後記

10数年前、想定内・想定外という言葉が流行語となりました。今回の取材では、変化が激しい現代において、想定外の災害に対して、研究者が被害への万全の備えに挑み、生活者が万が一の際に周りを巻き込んで助け合う関係性を築いていることを知りました。一段高い視点で防災を自分事として考えている方々の姿から、微力ながら想定外を超越して自分自身に何ができるかを考えていきたいと思いました。（五）

今号の水の文化書誌からは、日本が災害大国であり、被害を伝承してきた努力が分かる。最近は江戸川区のハザードマップが話題になり、行政がリスクと避難対応策を届けようとする必死さが感じられた。しかし国や行政がいくら必死に対応を用意しても、私達がそのメッセージを受け止めなければ意味がない。まずは、自分の周りの災害リスクを直視し、発信されるメッセージを我が事化する真摯さを備えたい。（松）

四捨五入して40年、幸いなことに今まで大規模災害というものに遭遇したことがありません。いつか必ず、大きな災害はやってくる。その時に自分や家族、仲良しのご近所さんみんなが生き延びる為に、まずは自分に何ができるのかを考えるところから始めようと思います。あと廊下の隅で少しホコリをかぶっている非常持ち出し袋の中身の確認もしなければならないと感じています。（飯）

小学校の防災訓練で覚えているのは、「おさない、はしらない、しゃべらない」。そんな漠然とした防災意識だったが、取材先で地震発生から津波到達まで3分というニュースを見て鳥肌が立った。住んでいる土地ではないにしろ、いつ、どこで起こるかわからない災害。何の備えも心構えもない自分が何もできずに慌てふためく様が容易に想像できた。まずは「逃げキッド」のダウンロードから始めてみようと思う。（力）

かなり重い特集テーマだったが、取材でお会いした皆さんの明るさとたくましさに引き込まれた号となった。例えば水上げ小屋に避難した様子を語った古座川町の方々。「水害は嫌だけど、ここは生まれ育った土地だからね」と覚悟を示す一方で、「次に水が来たら泳いでやりますか！」と冗談も言う。真剣に、ときには笑いも交えながら防災に取り組む人たちと接して、地域を見る自分の目も変わりつつある。（前）

ミツカン水の文化センター機関誌
水の文化 第62号
ホームページアドレス
http://www.mizu.gr.jp/

発行
ミツカン水の文化センター
〒104-0033 東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中埜ビル
株式会社 Mizkan Partners
Tel. 03（3555）2607 Fax. 03（3297）8578

発行日
2019年（令和元年）7月

企画協力（氏名50音順）
沖 大幹 東京大学生産技術研究所教授
古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会
陣内秀信 法政大学名誉教授
鳥越皓之 大手前大学学長
中庭光彦 多摩大学教授

制作
浦本五郎
松本裕佳
小林夕夏
久保悦史
飯野真奈実

編集製作
前川太一郎 編集
中野公力 デザイン・撮影
蔵田 豊 デザイン

執筆
秋山健一郎（pp.36-39）
佐々木 聖（pp.6-13、pp.22-25）
手塚ひとみ（pp.14-17）
前川太一郎（pp.33-35）
開 洋美（pp.18-21）

撮影
大平正美（pp.18-21）
川本聖哉（pp.14-17）
鈴木拓也（p.6、pp.36-39）
中野公力（pp.41-45）
藤牧徹也（p.10、pp.22-25、pp.33-35、pp.46-49）

印刷
中埜総合印刷株式会社

※禁無断転載複写